

福竜丸だより



都立・第五福竜丸展示館ニュース

発行 (財) 第五福竜丸平和協会
連絡所 〒136-0081
東京都江東区夢の島3-2
都立第五福竜丸展示館内
電話 03-3521-8494
URL <http://d5f.org>

大学での平和教育

西川 潤

早稲田大学の大学院アジア太平洋研究科で「開発、人権と平和」と題した研究プロジェクトの指導を始めてから四年目になる。このようなテーマで自分の研究をしたという青年が多いということはたいへん心強いことだ。平和研究では先ず何よりも、平和の概念をきちんと把握してもらおうように心がけている。平和の第一の意味はいままでもなく、戦争や核兵器の恐怖が存在しないことである。この方向では、第五福竜丸展示館のメンバーでもある竹峰誠一郎君(編注150)周年記念プロジェクト委員)が、今年「マーシャル諸島アイルック環礁のヒバクシャによる核実験認識」と題した力作を出してくれた。「カナダの平和構築」についての論文もある。第二の意味は、目には見えないが、人権や人間の尊厳を蹂躪したり、抑圧したりする構造的暴力が存在しないことで、この方向での論文がじつは一番多く、日系ブラジル人介護労働者、映画「ホテル」に見る日韓誤解の構造、ターミナルケアの日中比較、タイの社会開発にもつNGOの役割、豊田市での外国人労働者のコミュニケーション問題、日本の留学生政策等、ユニーク

な発想に従い、現場を克明にしらべた論文がいろいろある。第三の意味は、平和の基礎として、人間同士がお互いに理解し、信頼感を強め、積極的に協同して結び付いていくことで、いわゆる「積極的な平和」(ガンジーの言う「アヒンサー」)だが、この分野でも、知的障害者の自立(映画「Able」をめぐって)、北アイランドの統合教育(プロテスタントとカトリックの相互理解)、コミュニティ・ビジネスなど、それぞれ自分の足でしらべた多様な力作が出されており、その内、テーマ別に本にまとめて刊行するのが楽しみである。

学部では、半期の「平和・未来研究」を担当しているが、聴講者の学生諸君には必ず平和博物館をどこか訪問して、感想文を書いてもらうようにしている。平和というよりは「泰平な」社会に暮らして、ふだん平和をことさら実感したことのない若者にとって、戦争の記憶をどうめ、平和文化を身に付けるきっかけをあたえてくれる平和博物館は、平和教育のために不可欠な場である。訪問するのはどうしても東京周辺のところが多いが、東京都の江戸東京博物館、川崎市平和

館、豊島区立郷土資料館、埼玉県平和資料室、丸木美術館などは学生がよく訪れるところである。もちろん第五福竜丸展示館は水爆汚染の恐ろしさを身に沁み感じさせてくれる場で、レポートに生々しい印象を記す学生も多い。神奈川県戸塚区に作られた地球市民神奈川ブラザ国際平和展示室は、私が諮問委員会の委員長として、神奈川県のもつ戦災資料と、今日の世界的な南北格差の中で生まれる貧困、難民、人権侵害を結び付ける点で苦心し、さらに平和への願いを幼少の時期から身につけられるように多文化理解を併設した子どもプラザで実験してもらおうように構想した、やや欲張った展示室だが、そのねらいを学生たちはよく受け止めてくれている。総合的な平和資料館としては、広島・長崎・沖縄の「御三家」を除けば、川崎市平和館と大阪市の人権博物館がすぐれていると思うが、一方の雄は靖国神社の遊就館で、ここを訪ねる学生たちも多い。かれらは、いわゆる「靖国文化」、つまり、国家が引き起こす暴力性は不問にして、国家に忠誠を捧げる人間像を一面的に展示する映画「ホテル」もそのような面をもった「反戦」の志は韓国では理解されなかったやり方の非人間性を的確に見抜いたレポートを出している。

(2めん下につづく)

お花見平和のつどいから折り鶴を 広島・長崎へ

四月五日に開かれるお花見平和のつどいの企画と準備作業がすすめられています。女性の立場からの戦争・被爆体験の証言を聞くコーナーや若者たちのトークコーナー、折り鶴コーナーをはじめ各団体の平和のとりくみの展示や子供たちへの読みかせや紙芝居のコーナー、ストリートミュージシャンによる演奏なども検討されています。

昨年、たくさんの参加者が東京地婦連の折り鶴コーナーで鶴を折りました。平和へのねがい、核



8月6日広島で折り鶴を捧げる

兵器廃絶をねがって一羽一羽でいねいに折られた鶴は、地婦連の代表により、七月の東京の被爆者の会(東友会)の慰霊のつどいに届けられました。この鶴はさらに、被爆者の代表により、八月六日広島市中央公園にある「東京の被爆者の木」への献水式にて捧げられました。九日には長崎平和公園の「東京の木」に捧げられました。

(2めんからつづく) 博物館とは、この失われてしまいう危うい「もの」を出来得る限り保持・保存して「もの」が持つ事実、歴史、物語などを記憶・知識として人びとに伝え続ける役割を持った施設です。保存展示されている第五福竜丸の船体には、この船が経てきた時間と体験とが染み込み焼き付けられて、その船体は観る人に多くを語りかけ、訪れる人に大きな体験を与えてくれます。

文字や画像で歴史や知識をただるだけでなく「館」でこの船体を目にする「博・物」一体となつて強力な説得力を感じます。実際の迫力には及ばないものの、これらの記憶や知識などの情報を視覚的に時間・距離を越えた世界中の人々に伝え、何時でも世界の何処からでも観て感じられる、第五福竜丸とその展示を体験する「場」として、このホームページは計画されました。



8月9日長崎にて

デジタルになった文字や写真、また映像や音声などの時間情報も直接伝え、見ることができるようインターネット。ここでは総ての情報要素が時間や距離を越えて自由に

「福竜丸だより」一月号の三面の「平和博物館と私」の文中三段目、五行目に誤りがありました。「運動」を挿入し次のように訂正します。
「日本は平和博物館運動がある唯一の国である」。

おわびと訂正

「福竜丸だより」一月号の三面の「平和博物館と私」の文中三段目、五行目に誤りがありました。「運動」を挿入し次のように訂正します。

このホームページは、展示館と第五福竜丸に関する空間を俯瞰できる事を目的としています。そして第五福竜丸にまつわる歴史・知識と核の現実などを概観できるなど、第五福竜丸の博物館体験を促進するインターネットならではの時間・距離・空間を越えた体験を提供する場所の博物館サイトです。

(千葉大学都市環境システム学科) (以下次号につづく)

第五福竜丸の「博物『観』
つくり」
展示館ホームページ
「http://d5f.org」(上)

野口昇明

第五福竜丸平和協会の展示館のホームページは、昨年の一〇月以来、検索エンジン上に登録され、徐々にアクセス件数も増えて、二月中旬には、三五〇〇件をこえました。

展示館ホームページのづくりをボランティアで引き受けてくださった野口昇明さんに、制作意図と今後の展開について寄稿いただきました。

メディアのはなし…イン
ターネット時代

昔、手で書かれていた文字は、木に彫られ版画となって複製が作

られるようになりました。そして金属の活字が作られ、それを並べて印刷された「本」は聖書は宗教を飛躍的に広める役割を果たしました。

文字だけではなく図や写真なども合わせて、あらゆる知識をまとめた「本」という媒体は、大量複製の印刷によって多くの人がとへ同じ内容、同じ質の知識・情報を伝え続けています。

さらに近年には音や動きを加え、時間でパッケージされた映像情報がラジオ・テレビなどの放送メディアの電波に乗せられて、同時に広い地域へと伝えられ、東西の壁を崩すきっかけとなったとも言われています。

このように「情報」は媒体リメディアとともに広がり、社会を形作る基礎となって来ました。

二〇世紀後半、といってもおよそ一〇年ほど前、コンピュータの一般化パソコンの成長とともに登場したのが地球全体に張り巡らされたネットワークを通してインターネットです。このインターネットは、コンピュータで作られる文字、図、画像、音声やビデオ

などのすべてのデジタル情報を、直接に統合的・総合的に扱う情報基盤を作り出しました。これは情報を持つ・作る本人が直接発信したり、受け取ったりできる情報環境なのです。

いま「ブロードバンド」と言われる「高速でいつも繋がっている」ネットワークの時代になって、時間・距離の違いを超えたマルチ・エレメンツ、マルチ・メディア(情報要素・情報伝達媒体の複合)の情報・知識の流れを創る「情報媒体」としてだけでなく、双方向、参加型のあたらしい体験の場を生み出すテレビ・ラジオをも含める「メディア」として成長してきました。

それは、これまでの印刷や放送などの歴史的・伝統的な情報媒体を統合・総合する地球規模の情報伝達メディアなのです。

博物体験の場としてのインターネット・博物サイト

すべての形ある「もの」は朽ち果てる運命にあります。戦後日本の遠洋漁業の歴史とともに、広島・長崎被爆と終戦から九年後の一九五四年、アメリカのビキニ水

(1めんからつづく)

この四月から、早稲田大学で全学的なテーマカレッジ「平和学」を始めることになった。広島、長崎両市の協力を得て、「二〇世紀世界の平和とは？」をテーマにした共通講義で差し迫るアメリカのイラク攻撃など平和学の先端課題、南北問題、ジェンダー、環境や平和文化、科学技術など、七人の教員が多面的に扱い、並行してこれらの主題に関する演習を指導する。受講者の学生諸君が第五福竜丸展示館を訪れる時には、宜しくご指導を頂ければ幸いです。

(早稲田大学大学院教授)

爆実験によって起きた放射能被曝という事実と歴史を背負った第五福竜丸も船としての役目を終えて夢の島で朽ち果てようとしています。

ごみの海に打ち棄てられていたビキニ被災船のことが報じられると、二六歳の会社員の呼びかけによって起こされた市民の声や原水爆反対の運動の力によって、この船は棄てられていた「夢の島」に修復・保存される事になったのです。

(4めん下につづく)

社会科学見学
小学四年生の
五〇通の感想文から

*男子

ぼくは、第五福竜丸てんじ館で入り口から入った時「でかい船だー」と思いました。おもさ二五〇キロのいかりを持ち上げようとしたけれど、上がりません。ぼくの何倍もあるからせんせんだめでした。

スタンプを押して帰りました。

*女子

てんじ館にあった空が真っ赤になってる写真を見て、「赤いクラゲみたいにくれあがつてるな。へどなんかこわいなあ。」と思いました。私は、昔にこんなことがあったのは知りませんでした。

*女子

第五福竜丸の説明を聞いて、なんでアメリカの水爆実験にまきこまれなきゃいけないんだろうと考えました。

見学していたら先生が「もし北ちようせんがばくだんを東京におとしたらもうみんな死んじゃうからね。かくへいきとかってこわいよね」と話してくれました。私は、これからはかくへいきもなく争いもない平和という言葉があう日本に少しでも近づけたらいいのと思いました。

*女子

ふねにさわるとザラザラでなんだか本物というか昔の時代にさわった感じがしました。

「戦争という言葉はなんだろう？」と思ったくらいかわいそうでした。みんなが、あのふねの話や見たりすると戦争は二度とおこらないと思います。

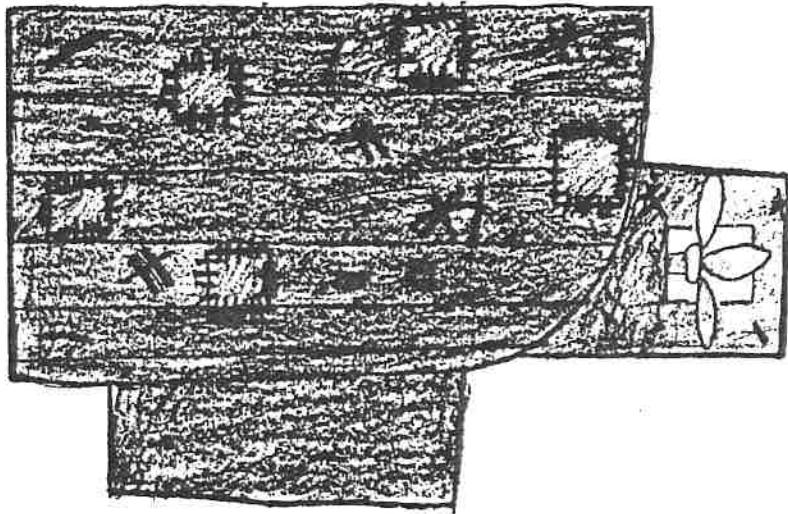
*男子

入ったら大きな船があつてびっくりしました。ガイガー検知器がありました。いろいろなボタンや温度計みたいなものがありました。古いバケツやランプや漁具がありました。福竜丸に乗りたかったけど乗れなかったことが残念でした。

*女子

福竜丸のことがとってもよくわかりました。木ぞうだけどとおくまでいける

のですごいと思いました。久保山さんや乗組員の方は、とってもかわいそうだとおもいました。



ふくりゅう丸——こころにのこったことは船がすててあったことです／福竜丸に乗りたかった。／こんな小さなスクリュウで太平洋まで行ったんだ。この船はすごいんだなあと思いました。